

第 24回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評

小学 5・6 年生部門

●審査員 A

流石アジア大会と納得の演奏を数多く聴くことが出来ました。音楽を自分の中に取り込んで、十分に表現されている方もいて、嬉しく思いました。自分の音は、毎日の練習から生まれます。どうやって *f* を鳴らすか、*p* はどの程度にするのか、そして何より上体や腕の脱力も必要。既にそういう音を獲得している人もいますが、決して多くない。もっと美しい音でホールを満たすことの出来る人が増えることを祈ります。

●審査員 B

本日演奏された皆さんの中には、音楽に対する豊かな感性と才能をお持ちの若いピアニストの方々が多くいらっしゃいました。あえてお伝えするとすれば、アーティキュレーションや音色にもっと注意を払い、どのクライマックスもしっかりと盛り上げられるようにしましょう。自然に任せているだけでは十分ではありません。そして、指先はいつも腕と繋がっているという感覚も忘れないようにしてください。

●審査員 C

総じて、どの参加者も高い技術をお持ちとお見受けしました。各作品の難しいパッセージも無理なく弾きこなしていらっしゃいます。しかし、多くの場合、芸術的なアイデアが不足していて、説得力に欠けると思いました。特に即興曲 1 番と幻想即興曲の中間部では、ペダリング、メカニズム、表現力の欠如、伴奏の音量が大きすぎるなど、不十分な点が散見されました。指導者はレッスンの際に、技術的な面や表面的な側面よりも、各作品の芸術的、音楽的側面に注目して頂きたいと思えます。同時に、非常に熱心に研鑽を積まれている若い演奏家たちに、心から賛辞を贈りたいと思えます。

●審査員 D

全体の印象としてはみなさんととも曲を愛してよく勉強なさっています。テンポや対比、曲想など、楽譜上は理解されています。メロディラインがなめらかにつながるためには、タッチと響きを聞く耳が必要です。和音も重ねただけでは美しいハーモニーにはなりにくいです。*f* の性質や響きを、曲想にどう反映させていけるか。たくさんの音色の引き出しを持ってほしいと思えました。

●審査員 E

作曲家が作品を通して言いたかったことをピアノに語らせると同時に、ご自分が感じ取ったことをメロディーにのせハーモニーにのせリズムにのせ聴いている方々に伝えるためには、心を研ぎ澄まし耳を働かせなくてはなりませんね。ここまで努力され名曲を弾けるようになった皆様は、更に様々なことに心を動かし想像力をはばたかせて、沢山の音色をホールに響かせられる人になって下さい。ピアノに向かうことは、歴史や文学や地理や科学…etc. 広い世界への入り口のドアではないかと思えます。ショパン国際ピアノコンクールですからショパンの生き方や苦しみ、そして現代と重なってしまうポーランド隣国へのロシアの侵略をも心にとめて下さいね。

●審査員 F

アジア大会へ進出された皆さん おめでとうございます。地区大会から始まり、全国大会を経て、ここまで進んで来られた方々ですので、皆さんの演奏レベルは高く、素晴らしい演奏を聴かせて頂きました。この部門は全国大会・アジア大会と日にちが近いので 2 度の本番にピークをもって来るのは大変だった事でしょう。でも皆さん良い緊張感の中で落ち着いてホールの響きを聴き演奏されていたと思います。このように本番が続いた時などの気持ちのコントロールも今後は一緒に考えて練習されていかれると良いと思えました。